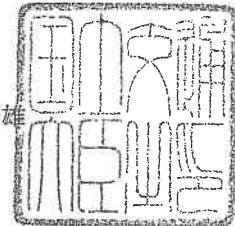


# 認定書

国住指第2047号  
平成 17年 11月 28日

三菱マテリアル建材株式会社  
代表取締役社長 山村 洋司 様

国土交通大臣 北側 一雄



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第68条の26第1項(同法第88条第1項において準用する場合を含む。)の規定に基づき、同法施行令第46条第4項表1の(八)の規定に適合するものであることを認める。

## 記

1. 認定番号

FRM-0144

2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称

厚さ9.5mmのけい酸カルシウム板張り／鉄丸くぎN50／くぎピッチ:外周@150mm、中通@300mm／真壁造床勝ち受材仕様／木造軸組耐力壁

3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容

2.0の倍率を有する軸組と同等以上の耐力を有する軸組別添の通り

(注意)この認定書は、大切に保存しておいてください。

(別添)

1. 構造名

厚さ 9.5mm のけい酸カルシウム板張り／鉄丸くぎ N50／くぎピッチ：外周@150mm、中通@300mm／真壁造床勝ち受材仕様／木造軸組耐力壁

2. 構造の概要

2.1 面材等の概要

(1) 面材

a) 材料の名称

名 称：けい酸カルシウム板

規 格：JIS A 5430 (繊維強化セメント板)

種類の略号：1.0FK (JIS A 5430)

b)

c) 寸法及び許容差

	幅 (mm)	長さ (mm)	厚さ (mm)
寸 法	910, 1000	1820、2420、2730、3030	9.5
許容差	+0, -2	+0, -2	±0.5

d) 品質の基準

性能

見掛け密度：1.0±0.1g/cm<sup>3</sup> (JIS A 5430 (繊維強化セメント板) の試験方法による。)

曲げ強さ：13.0N/mm<sup>2</sup>以上 (JIS A 5430 (繊維強化セメント板) の試験方法による。)

吸水による長さ変化率：0.15%以下 (JIS A 5430 (繊維強化セメント板) の試験方法による。)

出荷時含水率：10%～15%

質量：10.7±0.8kg/m<sup>2</sup>

吸水率：60±5% (JIS A 5430 (繊維強化セメント板) の試験方法による。)

外観

割れ及び貫通き裂：ないこと。

欠け、ねじれ、反り、異物の混入及び汚れ：使用上支障がないこと。

(別添-1)

## (2) 接合具

JIS A 5508 (くぎ) に規定された N50 (鉄丸くぎ)

## 2.2 耐力壁の適用範囲

- (1) 当該面材を使用した耐力壁の適用範囲は、建築基準法施行令第40条から第49条(ただし、第48条第2項は除く。)に準拠した木造軸組とする。
- (2) 昭和56年建設省告示第1100号に定める構造用合板または構造用パネルを直張りとした軸組を併用する場合は、5を限度として両者の倍率を加算できるものとする。

## 2.3 耐力壁の施工仕様の概要

### (1) 軸組材

- ①柱、土台、胴差、桁及び梁の断面寸法は105mm×105mm以上とする。
- ②面材を受材を介して柱、胴差、桁、梁に留め付けるための受材の断面寸法は30mm×50mm以上とし、鉄丸くぎ N75 (JIS A 5508) を用いてくぎ相互の間隔 200mm 以下で軸材に留め付ける。
- ③面材を受材、床下地材を介して土台に留め付けるための受材の断面寸法は30mm×50mm以上とし、床下地材(厚さ24mm以下のJAS構造用合板)を鉄丸くぎ N75 (JIS A 5508) を用いてくぎ相互の間隔を 200mm 以下で土台に留め付けた後、鉄丸くぎ N90 (JIS A 5508) を用いてくぎ相互の間隔 150mm 以下で受材を床下地材に留め付ける(千鳥打ち)。
- ④間柱の断面寸法は 30mm×50mm 以上とする。
- ⑤面材の継手となる間柱及び胴つなぎの断面寸法は 45mm×50mm 以上とする。
- ⑥面材の継手となる柱の間隔は 2000mm 以下、間柱の間隔は 910mm~1000mm とする。

### (2) 面材の取り付け方

- ①面材の取り付け方は受材を介して軸組の内側に留め付けることとし、その張り方は縦張りとする。ただし、胴つなぎを介して面材を縦方向に継ぐ場合の上側の面材は横張りとすることができる。
- ②面材は、鉄丸くぎ N50 (JIS A 5508) を用いて、面材の外周部ではくぎ相互の間隔を 150mm 以下で受材 (30mm×50mm 以上) 又は胴つなぎ、間柱 (45mm×50mm 以上) に、また、面材の中通りではくぎ相互の間隔を 300mm 以下で間柱 (30mm×50mm 以上) に留め付ける。
- ③面材と柱、横架材との隙間は 1mm 程度とし、面材端部とくぎとの間隔(へりあき距離)は 12mm 以上とする。

### (3) 施工図

施工図を図-1.1~図-1.5に示す。

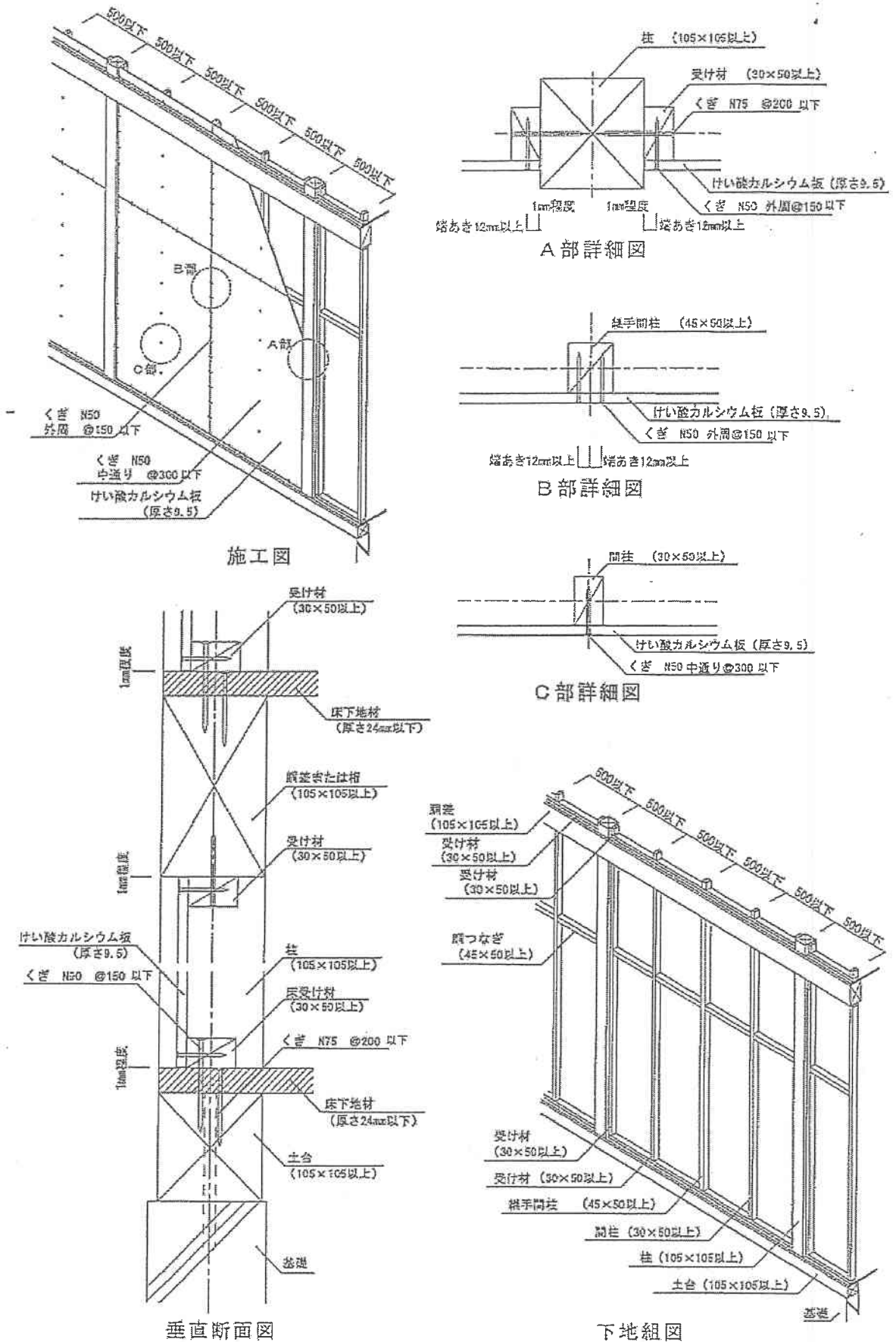


図-1.1 施工図：継手を設ける場合 (寸法単位：mm)

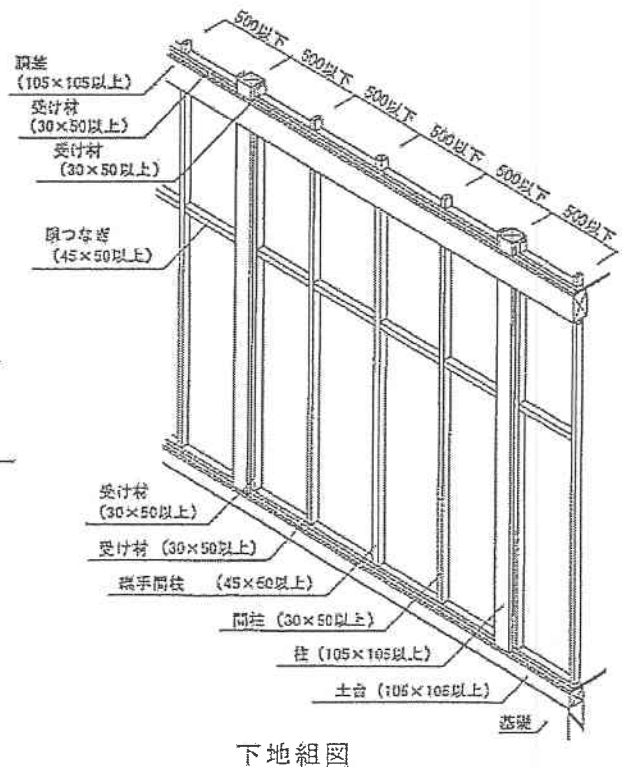
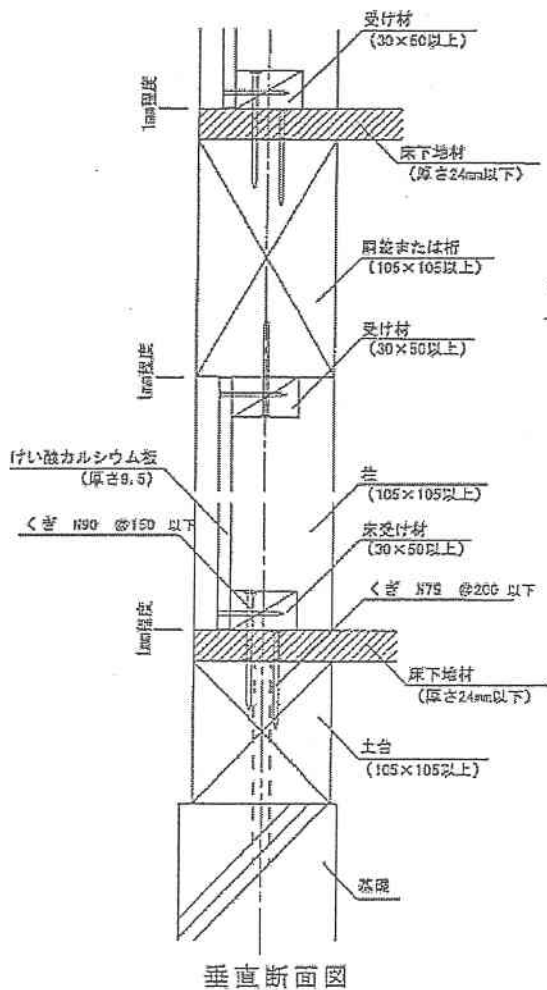
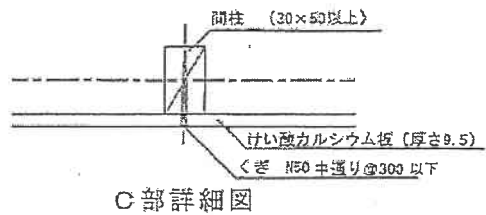
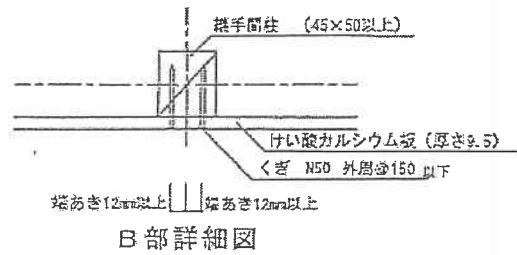
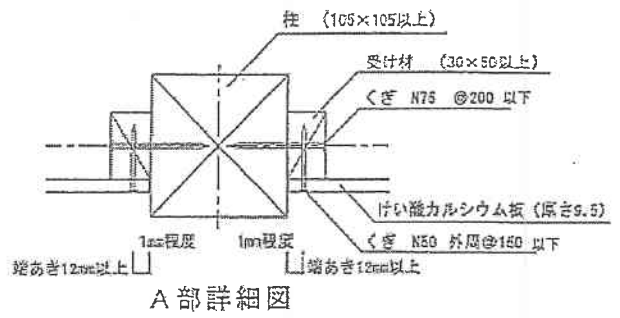
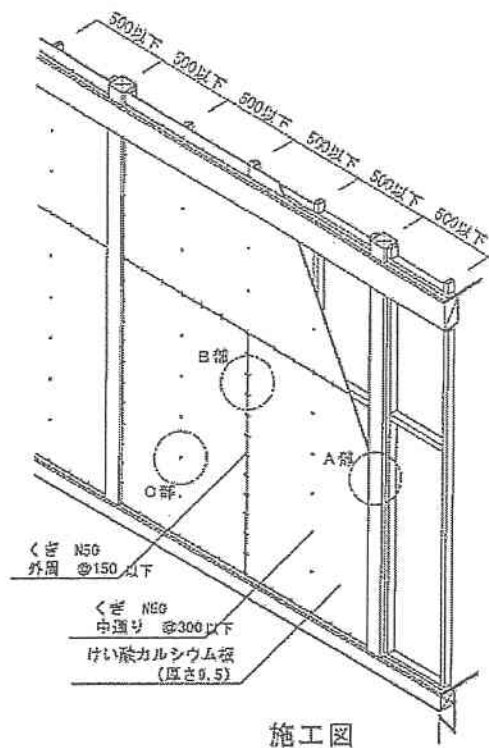
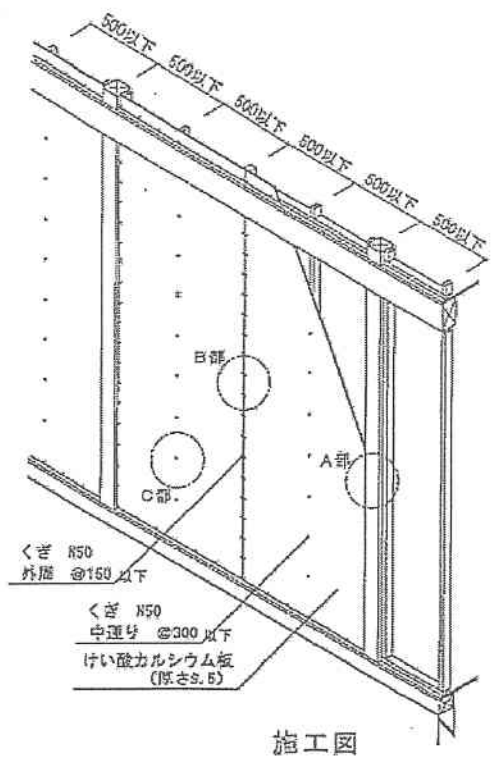
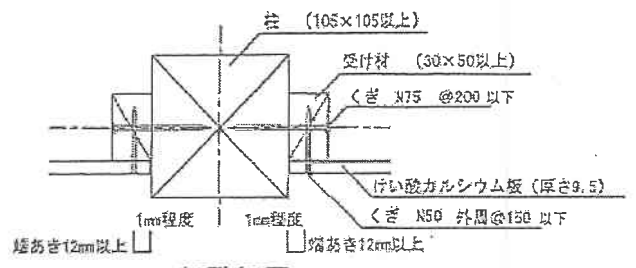


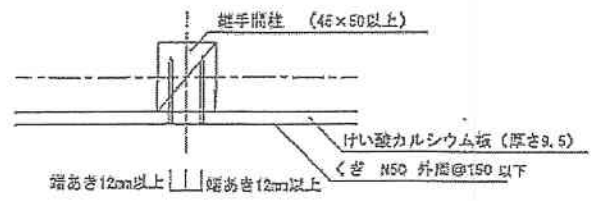
図-1.2 施工図：継手を設ける場合（上部横張り）（寸法単位：mm）



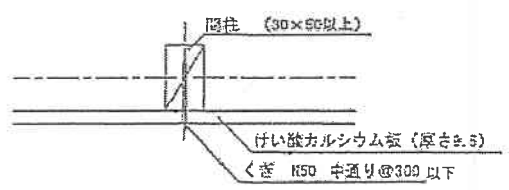
施工図



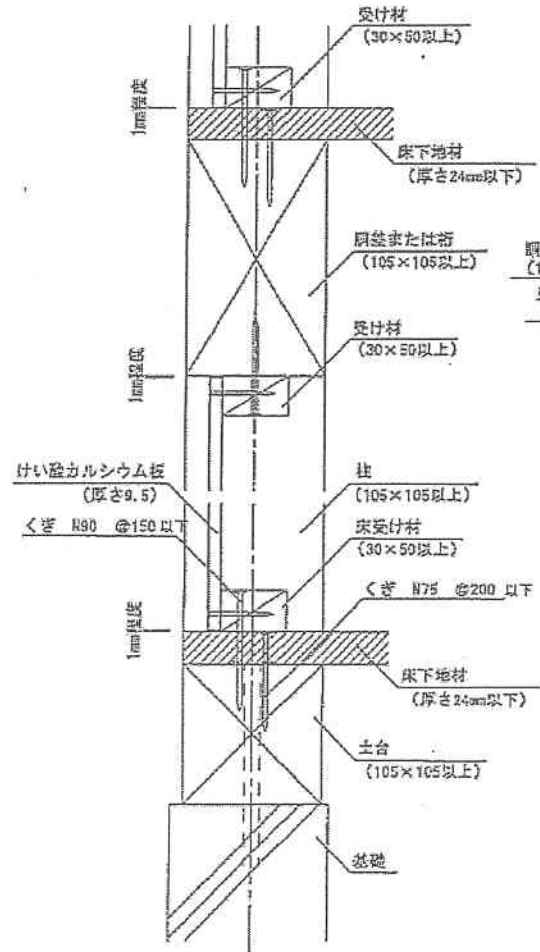
A部詳細図



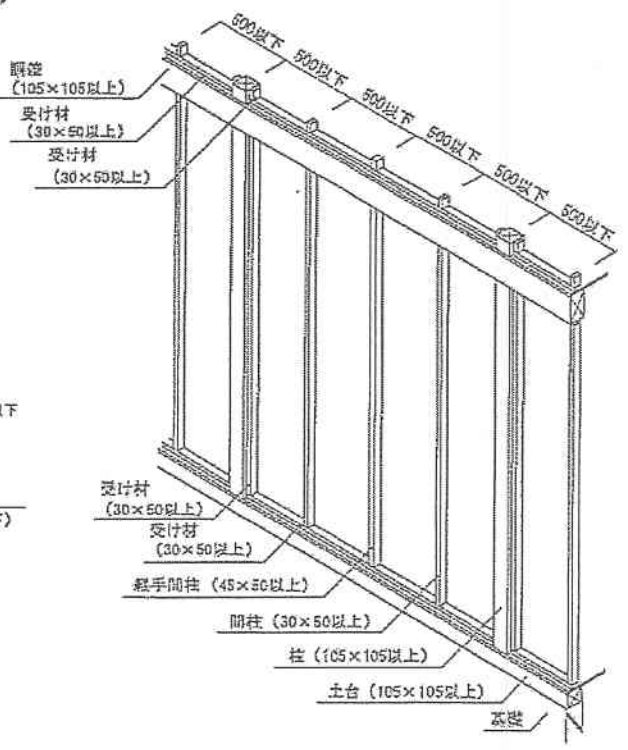
B部詳細図



C部詳細図



垂直断面図



下地組図

図-1.3 施工図：継手を設けない場合 (寸法単位：mm)

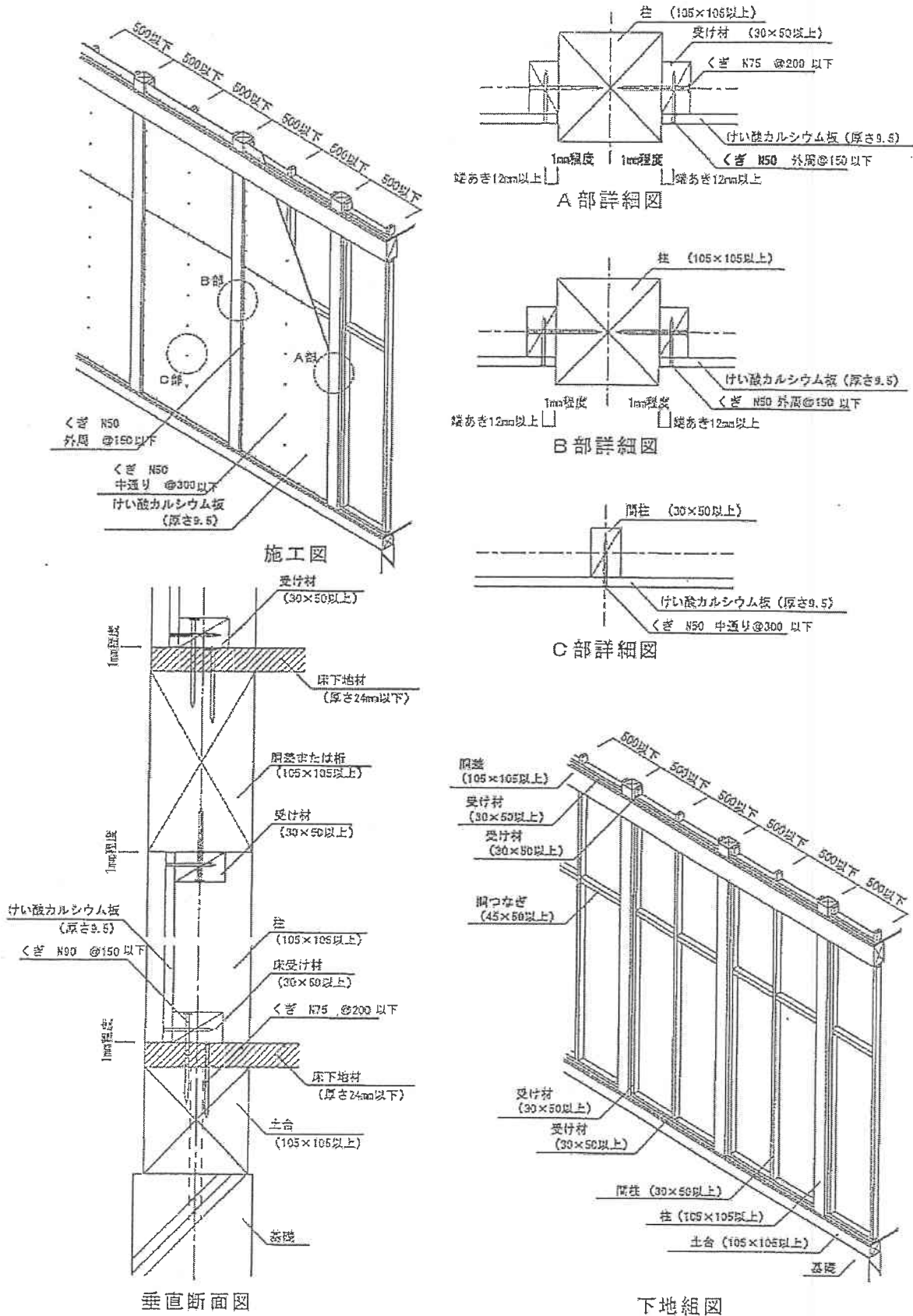


図-1.4 施工図：柱間隔1Pの場合 (寸法単位：mm)

(別添-6)

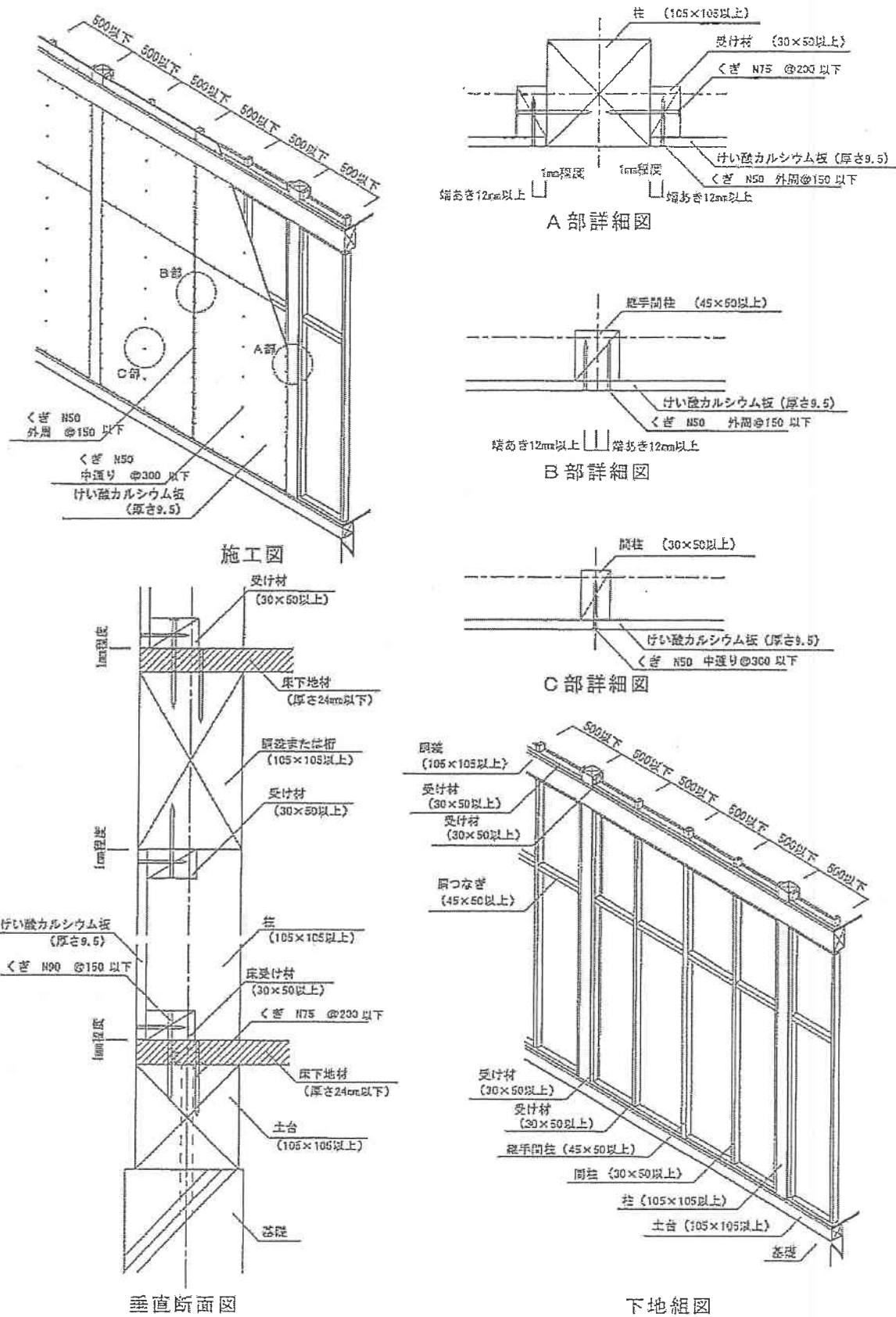


図-1.5 施工図：面材と柱が面一となる場合 (寸法単位：mm)